

夏堀 茂（なつぼり・しげる）

1、プロフィール

詩人。上京していた昭和 26 年頃に三浦哲郎と交友（『世代』に「或る詩人への手紙」として掲載されている）。西條八十門下の「プレイアド」に参加。「くうたふむ」同人。

<生没>

1929(昭和4)年3月24日～2010(平成18)年

<代表作>

昭和 29 年 10 月 20 日の詩集『晩夏の蝶』（あのなつす・そさえて）・昭和 32 年 9 月 20 日の『星あかりの庭』

<青森との関わり>

八戸市に生まれる。草飼稔・植木曜介・高木恭造・船水清・村次郎の詩誌「くうたふむ」に、船水の推薦により同人として参加。

2、作家解説

昭和4年3月24日、八戸市に生まれる。湊小学校、旧制八戸中学校を昭和23年に卒業し、旧制第一早稲田高等学院文科に入学。病気により中退。アテネ・フランセ、日仏学院でフランス語を学ぶ。西條八十門下の「プレイアド」に参加し詩作を始める。同時期に新谷和江等がいた。

昭和23年から33年まで東京に住み、郷土の詩人である村次郎の指導を受け、昭和29年10月20日に<あのなつす・そさえて>の第2期あのなつす叢書として詩集『晩夏の蝶』を出版。昭和29年3月1日に高木恭造の音頭で草飼稔・植木曜介・船水清・村次郎とで創刊された詩誌「くうたふむ」に、第8号より作品を発表し第10号より同人として参加する。

昭和32年9月20日に詩集『星あかりの庭』。(私家版)を出版。

昭和 34 年に八戸市の実家に帰り家業の水産物買いつけ業に従事。昭和 37 年頃に家業が倒産。その後、八戸商工会議所の広報担当嘱託として5年間勤務。この間に書いた作品は未完のまま詩集『風雪』として残っている。

昭和 42 年 10 月、八戸商工会議所を退職し、独立して、現在に続いているタウン誌「月刊ふれいがいど東北」を創刊。同誌は平成 14 年1月に 400 号を迎える。郷土の文化を様々な角度から見つめ、随筆等の書き手を育てることに力も注いだ。NHK八戸放送局の文化センター「エッセイを書く」講座の講師をつとめたほか、「ふるさと讃歌」等、作詞も手がけた。

3、資料紹介

○『晩夏の蝶』

図書

1954(昭和 29)年 10 月 20 日

198mm × 105mm

昭和 22 年に八戸市で村次郎と石橋正一郎によって設立されたくあのなっす・そさえて>の第2期あこのなっす叢書である。未知の友に捧げる 21 編の作品が収められている。タイトルにもなった「晩夏の蝶」の一連目は「ゆるやかに輪舞(ロンド)を描いて黒い蝶が飛ぶ」である。